

## 近喰流鍼法について

周防 一平, 小田口 浩, 花輪 壽彦

北里大学東洋医学総合研究所

**【緒言】** 近喰流鍼法とは近喰改吉(別名博審, 1876~?)創始, 長男近喰原民(1906~?)の二代に亘り行われた鍼法である。現在後継者は居らず, その鍼法の詳細は伝わっていない。そこで近喰流鍼法についての調査結果をここに報告する。

**【方法】** 『祈於毛鍼之素博』(近喰博審, 近喰療院研究所, 1934), 『全国鍼灸医家名鑑』(小林北洲, 帝国鍼灸医報社, 1939), 及び鍼灸雑誌『三交』『東洋鍼灸雑誌』『東邦医学』『帝国鍼灸医報』より関連箇所を抽出し, 調査・検討を行った。

**【結果】** 近喰改吉は明治9年(1876)新潟県西頸城郡生まれ。医学を志すが病氣, 経済的理由により挫折。その間, 近藤某という医師の下, 鍼術を研究。動物・人体への刺鍼や解剖実験及び自身への刺鍼により独自の鍼法を創始したという。明治41年(1908)東京市下谷区中根岸に金色堂近喰博鍼療院を開業。大正3年(1914)川島浪速(1866~1949, 川島芳子の養父)の治療により名声を博す。近喰原民, 明治39年(1906)新潟県西頸城郡生まれ。日本大学法学, 商学部卒業。大学卒業後約6年間法医学並びに刑事政策の研究に従事。その後, 父に鍼術を学び近喰流鍼法後継者となる。昭和14年(1939)新人弥生会に参加。東邦医学講習会講師などを務める。なお, 原民の弟妹は医師である。昭和40年(1965)の段階で, 原民は死去しており鍼術は途絶え, 近喰病院として残っているとのことである。その鍼法については『祈於毛鍼之素博』や『三交』の投稿記事など改吉本人による文章も残っているが, 具体的な治療法についての記載はない。また, 改吉について書かれた記事「東京の鍼灸界」(東洋鍼灸雑誌第16号, 1919.5)によると, 「長さ一尺二寸」「金質は銀」の毫鍼を「同長の管」を用いて刺鍼する, 「刺鍼の部位, 刺鍼時の作法等に就ては氏の奥伝になつてゐるので容易に他人には漏らさないと云ふ話し」という記載があり, 改吉は実際の治療法等具体的な鍼法は公開していなかったようである。一方, 二代目原民は講習会等でその鍼法を積極的に広めており, 「近喰氏鍼法奥伝公開記念講習会」(帝国鍼灸医報6巻8号, 1936.8), 「関東一の近喰流鍼法公開」(帝国鍼灸医報8巻11号, 1938.11), 「近喰流鍼法の理論と実際(一)」(東邦医学6巻9号, 1939.9)の各記事に講習会の内容が記録されている。これらの記事より近喰流鍼法の特徴を以下に列挙する。「頭が悪くても肩が悪くても, 大略全身に施鍼」「太つて居る方には長鍼を使つて数を多く打ち, 瘦て居る方には短い鍼を使つて数を少なく」「押手で(鍼を)入れる」「響を出す事をしない」「経験保有患者, 麻痺性疾患患者以外多くは, 垂直, 地平, 傾斜刺法による単刺法, 置鍼法に留め, その他の手技を敢行せぬ」「単刺術により一度組織へ刺入せる鍼は置鍼のまゝその部の運動を実行せしめ(手, 足頸部, 背部腹部等の運動)筋の伸縮鍼傷部位に対する血行の灌漑を完からしめ, 旋撚術其他各種の手技を敢行せずして其の目的を達成」「吸氣に抜鍼」「腹部の施鍼に際しては(中略)適応症に直面せば腹部の刺鍼点を撰定し一図の如く運動をなさしめつゝ施鍼す(中略)一図の治療法終わらば身体を横にし, 手足を伸張せしめ, 同一穴所へ向つて垂直又は地平刺法にて鍼の刺入を行ひ置鍼のまゝ腹部呼吸運動をなさしめ, 血行の調節を計る」「全身施鍼部位~頭部: 懸顛, 風池, 上肢: 消灤, 三里, 曲池, 支溝, 下肢: 三里, 下巨虚, 懸鐘, 三陰交, 腹部: 上脘, 中脘, 建里, 不容, 梁門, 関元, 背部: 肩外, 肩井, 神堂, 胆俞, 胃俞, 三焦俞, 大腸俞, 下肢へ下りて: 承扶, 陰市, 伏兎」「大腿部に(中略)長鍼地平刺法による誘導鍼」

**【結語】** 近喰流鍼法の一端が明らかとなった。